検査情報月報11月号 ▶ 概要版 ◀

▶ 横浜市衛生研究所では、試験検査等の結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。

横浜市内のマダニ類生息状況調査結果（令和2年度）

ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こります。マダニ類による吸血は、幼虫、若虫、成虫の各ステージで１回ずつ行われ、いずれも病原体を媒介するリスクがあります。ダニ媒介感染症のうち、特に近年問題となっている急性重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、本年近隣の県での感染事例報告があり、また患者発生報告のない地域のマダニからもSFTS ウイルス遺伝子の検出が報告されています。そのため横浜市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておくことが必要です。

主な結果 ▶ **市内の公園10地点**で調査を行い、採集したマダニ類を顕微鏡下で同定しました。
▶ 調査地点別に、円海山437個体、富岡総合公園3個体、獅子ケ谷市民の森1個体で **3種**（**キチマダニ**、**フタトゲチマダニ**、**アカコッコマダニ**）**合計441個体** が採集されました。
▶ 円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況は、若虫と幼虫の消長については、過去の国内の調査報告と一致しました。▶ 捕獲されたマダニ類の一部についてSFTSウイルス遺伝子検査を行いましたが、SFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした。

食品中の動物用医薬品検査結果（令和3年4月～9月）

動物用医薬品は畜水産物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は動物用医薬品について残留基準を設定しています。当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。

主な結果 ▶ **4月に計12検体**【牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体】、**7月に計10検体**【すずき目魚介類2検体（マダイ及びブリ）、さけ目魚介類4検体（アユ、サーモン各1検体及びギンザケ2検体）、エビ2検体及びウナギ蒲焼2検体】、**9月に計5検体**【牛の筋肉3検体、羊の筋肉1検体及び鶏の筋肉1検体】について、それぞれ検査を行いました。▶ **全ての検査項目で不検出** でした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報（令和3年10月）

当 WEB ページでは、感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事などの情報を提供しています。

主な結果 ▶ アクセス件数の上位は **感染症に関する記事が多くを占め**、総アクセス数は 210,435件でした。その中で、「保健の話題」として掲載している「**粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？**」が8位に入っていました。

2021年11月発行